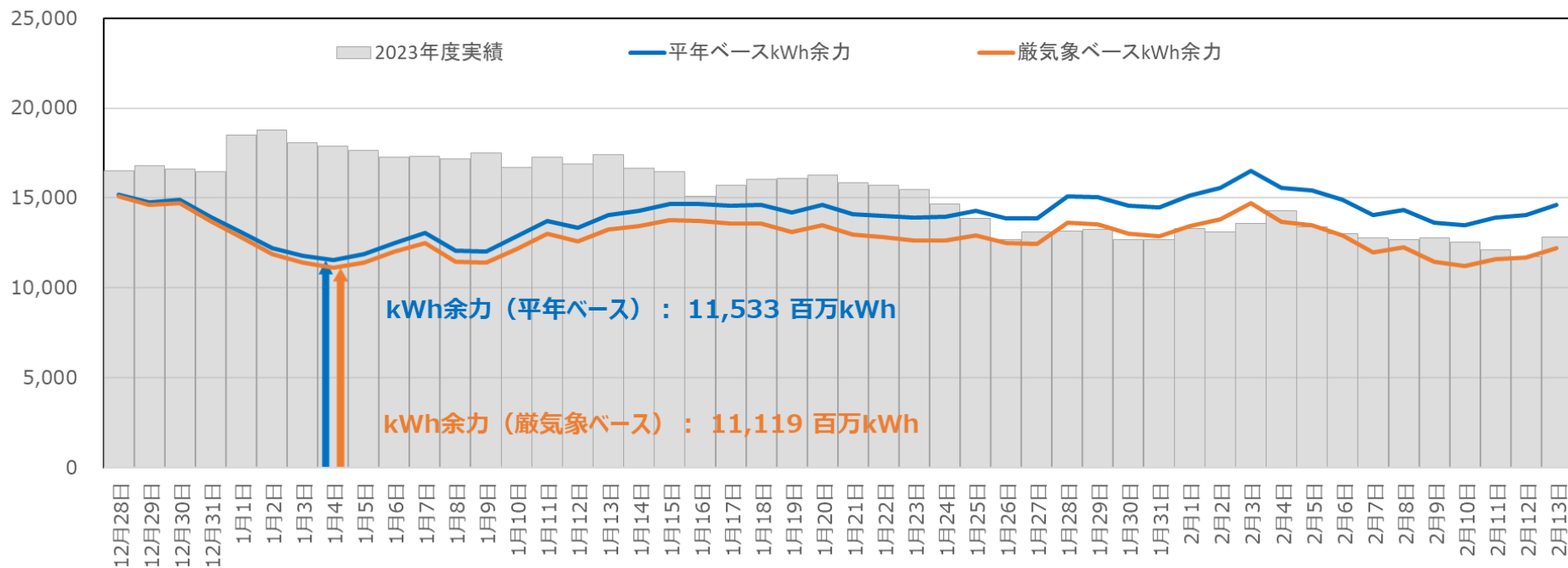


kWhモニタリング（対象期間:12/28～2/13）の結果

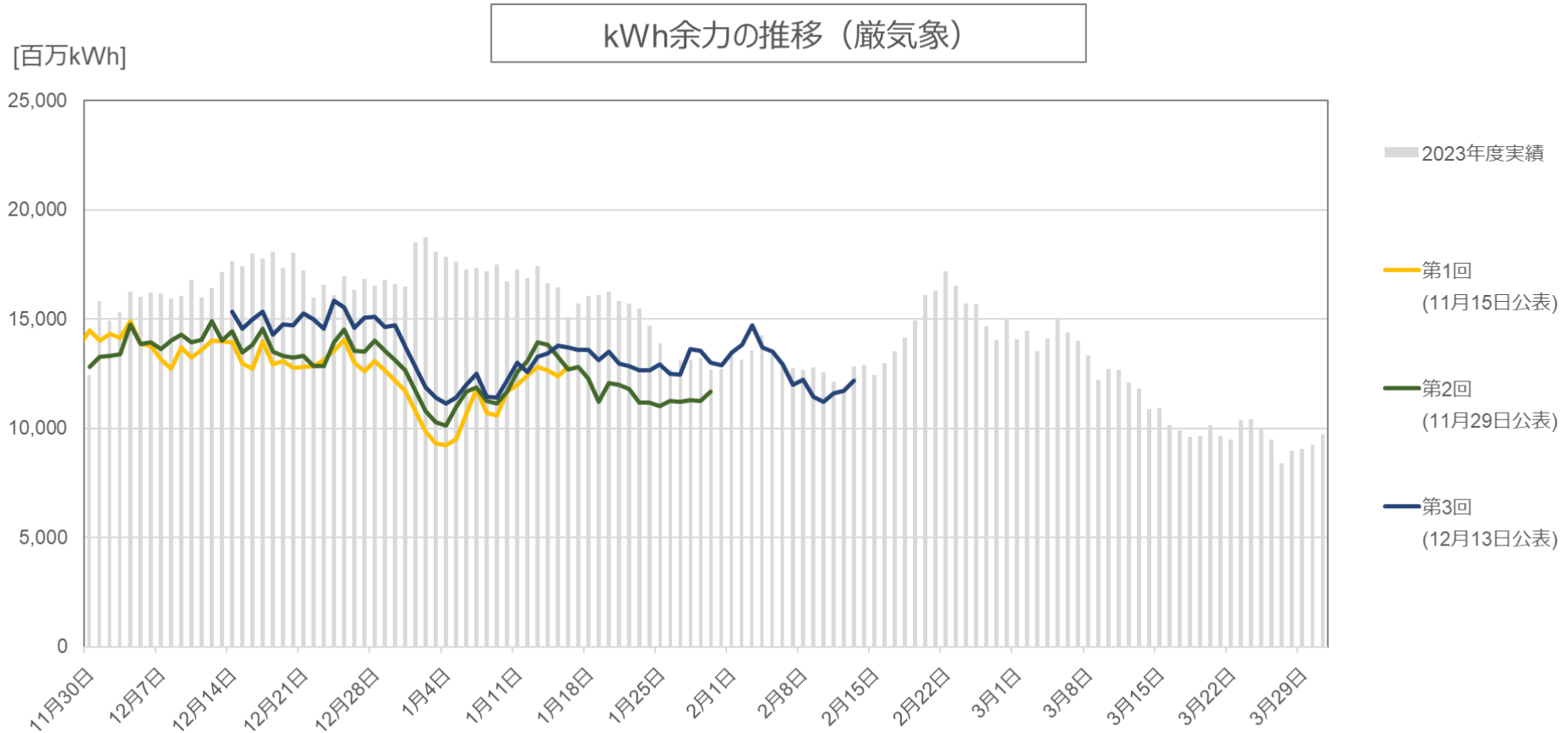
- 今後、平年並で需要が推移すると、kWh余力は1月4日に最小となる見込み。その値は **11,533百万kWh** であり、これは、対象期間の平均電力消費量の**約4日分**に相当。
- 厳気象ベースで需要が推移すると、kWh余力は、1月4日に**11,119百万kWh**となる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の**約4日分**に相当。
- 前回から傾向に大きな変化はなく、現時点で燃料在庫の観点からはひっ迫の恐れはないが、需要の増加や、原発・石炭発電等のベースロード電源の計画外停止によって状況が変化する可能性があり、今後も動向を注視していく。

[百万kWh]



kWhモニタリングの結果（これまでの結果との比較）

- 前回（第2回）のkWh余力（厳気象ベース）と、概ね同じ傾向で推移。
- 一部事業者の燃料調達等の影響で、1月後半以降のkWh余力が増加。



注：上記kWh余力の推移のうち、始めの2週間は気象予報を基にした需要を用いて算定したものであり、厳気象を想定した推移ではない